

# 石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和8年(2026)/3.31発行 No. 191

## CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第35回日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会
- ・委員会報告
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿
- ・病薬ニュース索引(189号~191号)



〔巻頭言〕

薬剤師同士のつなぎ役

石川県病院薬剤師会 副会長 小松ソフィア病院 診療技術副部長・薬剤科長 中山 貴央…… 1

〔第35回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会〕

発表者報告

クロザピン院外処方の手順書作成と運用体制の確立 金沢大学附属病院 島名 世南…… 3

学生数増加に対応した調剤実習の新体制構築と実践的学びの実現

金沢大学附属病院 板谷 歩果…… 5

当院におけるピッキングサポートシステム導入による安全性の向上

金沢医科大学氷見市民病院 北川 秀人…… 7

〔委員会報告〕

教育研修委員会

第36回 実務者研修会報告 小松市民病院 山崎 康貴…… 9

第36回 実務者研修会アンケート結果 …………… 10

地域連携推進委員会

第2回石川県病院薬剤師会 地域連携推進フォーラムを開催して

金沢大学附属病院 川上 貴裕…… 12

第2回地域連携推進フォーラムを終えて

石川県立中央病院 吉江 恵美…… 14

精神科治療委員会

令和7年度 第1回精神科治療委員会研修会報告 金沢医療センター 酒谷 健斗…… 15

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 …………… 16

〔南船北馬〕 …………… 17

〔寄稿〕「古寺との結縁-68」 院瀬見 義弘…… 18

〔病薬ニュース索引（189号～191号）〕

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

※石川県病院薬剤師会ホームページ・会員専用ページのパスワードが新しくなりました。

表紙写真 撮影

：熊走 尚志

卯辰山400年の森の桜

表紙は卯辰山 400年の森 大きな枝垂れ桜と両隣りの桜

裏表紙は小立野口からの兼六園 山崎山下の苔地と山の裏裾には、くぼ地があるが

そこはかつての氷室であった場所である。

## 薬剤師同士のつなぎ役

石川県病院薬剤師会 副会長  
小松ソフィア病院 診療技術副部長・薬剤科長 中山 貴 央

石川県病院薬剤師会の皆様には、日頃より大変お世話になっております。今年度より副会長を拝命いたしました、小松ソフィア病院の中山貴央です。大役を前に迷いもありましたが、環境が人を育てるといふ思いと、当院のような小規模病院の現状や考えをお伝えする役割も必要だと考え、お引き受けしました。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

前年度までは総務委員長として、ボウリング大会などを通じて会員同士の交流促進に取り組んでまいりました。今年度は副会長として総務委員会に引き続き関わるとともに、新たに地域連携推進委員会とNST委員会の担当主幹を務めることになりました。また、病院薬剤師会とは別に、南加賀地区薬業連携推進チームにも参加いたします。いずれも会員同士や地域薬剤師とのつながりを強化する活動であり、改めて“つながり”の重要性を感じています。今回は「薬剤師同士のつなぎ役」というテーマで、私の思いをお伝えしたいと思います。

近年、地域医療を取り巻く環境は大きく変化しています。高齢化の進行に伴い、在宅医療や地域包括ケアの重要性が高まる中で、薬剤師の役割も多様化しました。病院、薬局、施設、在宅といったそれぞれの現場が、より密接に連携することが求められています。かつては病院薬剤師と薬局薬剤師の役割が明確に分かれていましたが、今は患者さんを中心とした“チーム”として互いを支え合う関係が不可欠です。

病院薬剤師会としても、会員同士だけでなく地域の薬剤師の皆さんと深く連携していく必要があります。しかし、「どうつながるか」「何を共有するか」に迷う場面も少なくありません。病院では入院患者さんの治療に専念する一方、退院後のフォローや服薬支援には地域薬剤師の力が欠かせません。その橋渡しを担うことこそ、病院薬剤師の重要な役割だと考えています。

実際、退院時の情報共有や在宅医療への移行支援の場面で、地域薬剤師の方々と連携する機会が増えています。「退院後も薬を続けられるだろうか」「副作用は大丈夫だろうか」といった思いを共有できる相手が地域にいることは、私たちにとっても大きな安心です。また地域の薬剤師からは、「病院での薬の変更理由を知りたい」「検査値の見方を教えてほしい」といった声をいただくこともあります。こうした双方向のやり取りを通じて、信頼関係は少しずつ築かれていきます。

もちろん、時間的制約やシステム上の課題もあります。しかし、連携のきっかけは大掛かりな会議や制度だけではありません。退院時サマリーに一言添える、電話で相談してみる、地域薬剤師会の勉強会に参加してみる——。こうした小さな行動の積み重ねが、地域全体の連携力を高めると感じています。

石川県は都市部と中山間地域が混在しており、地域によって医療資源や薬剤師の活動範囲も異なります。その中で病院薬剤師会が果たすべき役割は、病院内の活動支援にとどまらず、「地域と病院をつなぐハブ」として情報を整理し、共有の場をつくり、互いの強みを引き出すことだと考えています。

例えば、病院薬剤師が持つ抗菌薬適正使用やがん化学療法の知見を地域に共有し、地域薬剤師からは在宅患者さんの服薬状況や生活面の課題をフィードバックしていただく。こうした双方向の連携が実現すれば、患者さんの安全と安心はより確かなものになります。

また、次世代の薬剤師にとっても“つながり”は重要です。若い薬剤師が病院・薬局の枠を越えて協働する経験は、視野を広げ専門性を深める大きな機会になります。病院薬剤師会としても、研修会や勉強会を通じて若手が気軽に交流できる場を増やしていきたいと考えています。立場や経験を超えて「同じ患者さんを支える仲間」として語り合える場をつくること——それがこれからの薬剤師会の使命ではないでしょうか。

最後に、私自身も一人の薬剤師として、地域の皆さんと顔の見える関係を築いていきたいと思っています。忙しい日々の中でも、「この人に相談すれば大丈夫」と思える関係があることは、医療従事者にとって大きな支えです。病院薬剤師会がその信頼の輪を広げる一助となるよう、今後も努力を続けてまいります。

